

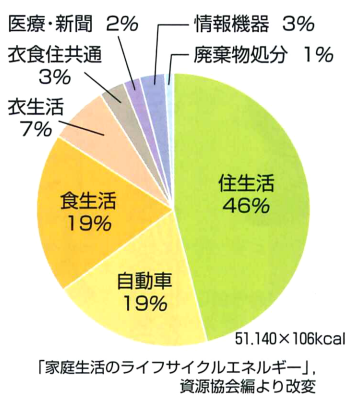


ハウスDr.青山建築士の

『住まいの最新情報』

その6

(図-1) [家庭のエネルギー]



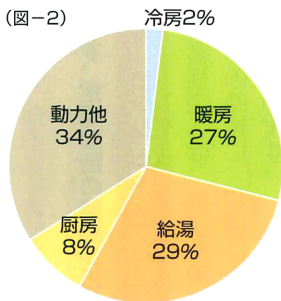
さて、その民主党が打ち出した政策でも国民生活に大きな影響と変化が出てくることになるのが、地球温暖化力

エネルギー消費量の

1/3は住生活分野が…

政権が変わりました。紆余曲折はあ
るのでしようが、自民党時代の政策から大きく変わっていきそうですね。このコラムのテーマである「住まい」に
関しても民主党は建築基準法の問題点
を見直した再改正、建築資産のストック
化に重点を置いたリフォーム促進策
など、様々な政策をマニフェストに記
載しています。立案に時間がかかるも
のも多く、すぐに実現するものばかり
ではないようですが、自民党時代の公
共投資偏重から内需産業を振興して「生
活重視の国」づくりへと転換するとして
います。典型的な内需産業である住宅
政策を景気低迷のこの時代にどのよう
にして拡大を図っていくのか、良質な
住環境が新しい施策によって促進する
ことを大いに期待したいと思います。

(図-2)



※注：動力他とは、照明、家電に使用されるエネルギーで、冷房、暖房、給湯、厨房に含まれないものをいう。

【資料】：(財)省エネルギーセンター
「エネルギー・経済統計要覧」より作成

通したエネルギー消費の割合を見ると
暖房、給湯で全体の半分以上を占めて
いるのです。(図-2)

又25%削減。この政策の推進によって
私たちの「住まい」にどのような影響と
変化があるのでしょうか。日本の総工
ネルギー消費量の中で「住生活分野」が
占める量は1/3といわれています。
つまり、「住まい」から出る温暖化ガス
を抑制することが、大いに求められて
いるということですね。(図-1)

建築は、まず建設するときに、使い
続けるときに、そして解体するときに、
それぞれエネルギーを消費し温暖化ガ
スを排出します。住生活で使用される
ライフサイクルエネルギーという視点
で見ると、コンクリートの製造、鉄の
精錬、木材の運搬など住宅を建設する
ときに要する部分よりも、完成した後
の住まい続ける部分のエネルギー消費
の方が多くなります。そして、年間を
通したエネルギー消費の割合を見ると

住まい方のエコドライブ

またエネルギー消費で大きな割合を
占める暖房と給湯の省エネルギー化に
は、設備機器の選定も重要です。新築
時に限らず既存住宅のリフォームに際
しても、省エネを考慮した機種を選定
はエコポイント制度などで国も誘導推
進しています。そして、これからはそ
の使い方にもアイデアが出てきそうデ
す。住まい方のエコドライブともいう
べき消費電力の管理をパソコンを通じ
て行うという技術も生まれており、住
まいでの省エネ環境がここ数年でずい
ぶん変わる可能性があります。

いずれにせよ住宅の長寿命化と省エ
ネルギー化への建築界での取り組みや
技術の普及は目覚ましいものがありま
す。車の選定でハイブリッド車が飛躍
的に受注台数を伸ばしている状況のよ
うに、住環境もそろそろ変わる節目を
迎えているようです。